

北東アジア地域協力参画へのモンゴルのステップ： その将来に向けて

モンゴル外務省政策立案・調査部アドバイザー G. トゥムルチュルーン

要旨

21世紀初頭、鉱物資源の豊富なモンゴルは、北東アジアの発展に欠かせない国として、国際政治および金融投資社会から注目を集めている。この20年間、モンゴル外交は、地域の経済、金融および政治制度に積極的に参画することを最大の目標とし、1994年と2011年に策定された外交コンセプトにも反映されている。しかし、この目標が達成されたと断言するのは時期尚早である。例えば、モンゴルは1993年以来、APECへの加盟を目指しているが、まだ正式に加盟国にはなっていない。ただし、この点については、最近いくらかの進展が見られ、米国およびカナダがモンゴルのAPEC加盟国入りを支持し、また、ロシアと2014年のAPEC議長国である中国も、モンゴルの加盟を支持している。

地域的发展にモンゴルが遅れてきた背景には、主に次の要因がある。第一は、社会主義時代のモンゴルが国際社会から孤立していたことである。そのため、モンゴルはソ連への依存から離れ、民主的な展開を推進することによって統合に参画することを最大の目標としてきた。第二は、自由市場における経験と市場経済活動が欠如していた点である。第三の非常に重要な要因は、未発展で多様化されていない経済である。これら全ての課題を解決することができれば、モンゴルは地域統合に参画する可能性を見出すことになる。

石炭、銅、レアアース、ウラン、金および銀などの膨大な鉱物資源を保有するモンゴルは、2011年に17.3%、2012年に12.3%の経済成長率を示した。2014年における見通しは約7%である。北東アジア地域の政治、経済、環境分野における動向に強力な影響を及ぼすモンゴルは、地域開発の発展に不可欠な存在になる可能性を秘めた国であると言える。